

令和5年度文部科学省委託事業 体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト
「冬休み森のアートキャンプ」(公益財団法人 京都YMCA)

試行・検証等のテーマ

(冬の) 自然の魅力を発見し、感じたことを表現し合おう！

背景・課題

○コロナ禍のもとで人間関係が希薄化し、他者の表現への非寛容が課題となっている。
○IT化の流れのなか実体験の伴わない情報・知識だけを得る学習が中心となり、何かを表現するに当たっての源泉である感情・感覚の貧困という課題が生じている。
○コロナ禍に屋外で仲間と群れ遊ぶ自然体験・仲間体験が貧困化した。

事業のねらい

○自然とふれ合い感じたことを創作として表現することを通して、感覚と感情を豊かにすることを目指す。
○衣食住をともにするキャンプでの交流をつうじて、自分のそれとはちがう仲間の表現をそうかと気づいたり、すごい、面白いなどと認め合ったりする態度を自然に涵養する。
○表現を通して気づきを得るなど、より深い自然体験を目指す。

事業内容

写真報告URL: <https://kyotoymca.or.jp/goc/?p=156862>

<実施にかかる体制>

実行委員会(○印は現場も担当)

委員長: 宇高史昭○

委員: 青倉国土○、小野敏明、内山亜衣、大野信幸○、小林郁佳、坂下泰幸○、佐古田正美○、佐々木稔○、船木順司

キャンプの現場

顧問: 坂井 昇(日本画家)

助言: 大野信幸(京友禅職人)

プログラム指導: 坂下泰幸

全体運営管理: 遠藤 浩

生活指導: 大学生リーダー2名

全体運営補助: 上記○印委員

<テーマに基づいた試行、検証等の方法>

自然のなかで遊ぶ、探す、選ぶ→制作(表現)→日々の振り返り→発表機会

<活動の内容>

○実施期間 2023年12月25日(月)~29日(金)

○実施場所 京都YMCAリトリートセンター

○参加者属性、人数

1年/2年/3年/4年/5年/計

女 2/ 2/ 0/ 1/ 1/ 6

男 1/ 0/ 1/ 2/ 0/ 4

計 3/ 2/ 1/ 3/ 1/ 10

○具体的なプログラム内容

12月25日 京都駅集合、出発、現地到着、オリエンテーション、画家登場し動機付け、昼食、草木を拾って草木染1、夕食後入浴と振り返り

12月26日 起床、掃除、朝食、草木染2、紙粘土細工1、昼食、焼き板とサンドアート、紙粘土細工2、夕食、暗夜行路、入浴と振り返り

12月27日 起床、掃除、朝食作り~朝食、草木染3、農家へ野菜をいただきに~昼食作り~昼食紙粘土細工3、夕食作り~夕食、入浴と振り返り



12月28日 起床、掃除、朝食、竹細工、昼食、作品仕上げ~アート展準備、夕食、アート展に画家再登場し好評価を与える、入浴と振り返り

12月29日 起床、朝食、大掃除、片付け~荷作り、ストーンペインティング、昼食、自由時間、全体振り返り、出発、京都駅到着、保護者に作品のアピール、解散

試行・検証等のテーマ

(冬の) 自然の魅力を発見し、感じたことを表現し合おう！

成果

○テーマに基づいた試行、検証等の評価・分析結果

・初日冒頭、オリエンテーションに日本画家が(計画的に)闖入し、一席ぶってくれたことは良い動機づけとなった。とくに「上手下手は関係ない、感じたままをぶわーと出したらよい!」というひと言は、子どもたちの心を解放したと思う。

・自然を感じ、そこで遊ぶことから始め(草木染めの)素材を選ぶという初日の流れがよかった。そのことにより自然→アートという流れが、その後も自然な流れとして意識づけられ動機づけられたと思われる。

・各自が作品づくりにあたり「ぼくはぼくだから」などと言いながら自分らしさを出して取り組めたので、色合いや形がそれぞれ違い、それを互いに認め合ったりほめ合ったりもできていたことは、たいへん良かった。

・1人ひとりがポストイットに「見つけたもの」などを書いて貼る日々の振り返りが習慣になり、それが相互交流のツールにも発展していた。

・ポストイットは最終日に個人ごとに集成され、5日間のポートフォリオとして1人ひとりの手元へ返されたのは良かった。作品同様、キャンプにおける良い経験や達成感を後からさらに補強してくれる筈だ。

・4日目夜の「アート展」と解散時、保護者を前にしての「作品プレゼンテーション」は、作るだけでなく披露する/発表する機会として更にモチベーションと達成感を上げる効果があった。とくにアート展では、子どもたちが主体的に協力して企画運営まで手がけており、チームワークの経験としてもたいへん良いものだった。

○計画通りいった点やうまくいかなかった点

・作品づくりにじっくり取り組むため、スケジュールを臨機応変に組換えながら運営した。アート面では良かったが、キャンプファイヤーとスポーツのプログラムはアートに押されて実施できなくなった。(ゆとりの時間をもてた最終日の午後、走り回る鬼ごっこを楽しむことは出来た)

・上記により、予定したアートの種類は一応すべて完成をみたが、個々にみるともっとゆっくり時間をかけたかった作品があるなど、種類をひとつ減らしてみても良かった。

・あるいは全員が同じことをするのではなく、ブースを分けて選ぶことができるようにすればより個々のペースで集中できたのでは、という意見も評価会で出されたので、次回への検討課題とする。

○保護者や参加者から寄せられた意見

(前略)無事に帰宅し、とても楽しかった5日間の様子を目を輝かせてずっと話してくれました。娘から話を聞いて、リトリートセンターの皆様、リーダーの皆様の細かいご配慮とご指導に心から感謝申し上げます。次第です。

野生動物の鳴き声を聞いたり、自分で料理をしたり、また集団生活の中で学んだ事も多く、家庭では与えられない貴重な経験をさせていただきました。特に、靴を揃えるなど、親が

成果

何年言い続けても出来なかった事を5日間のキャンプ生活で身につけて帰って来たのは驚きました。本当にありがとうございました。

(中略)お食事とても美味しくいただいたと話してくれました。お世話になりました。思い出に残る、素晴らしい5日間をありがとうございました。

また、参加させていただきたく存じます。

取り急ぎ御礼申し上げます、メール差し上げました。皆様お疲れの事と存じます。くれぐれもご自愛くださいませ。

それでは、良いお年をお迎えください。

【以下は他児の保護者】

(前略)(親の期待は)リトリートセンターで落ち着いて過ごすプログラムであること。自然の中に素材を見つけて「作品」を作ることや、京都YMCAがつながりをもっておられる人たちのお力やこれまで長年にわたり多彩なプログラム企画・運営されてきた経験が反映された内容だと思われたこと、なにより本児が絵を描いたり、自分なりの作品を作る時の集中力を見ていたため。(その期待に対する満足度は)95パーセント。(いっぽう子どもの期待は)参加前は(本児にとって)長期滞在型の経験したことがないプログラムであったことから、不安の方が大きく、プログラムへの期待の言葉は聴くことができませんでした。帰宅後は、その表情や作品を見せてくれる様子から楽しかったことが伝わりました。その子どもの期待への満足度は85パーセント? ちょっとわかりません。作った作品を「飾って欲しい」と言ったことから、自分なりに集中して制作に取り組んだことがわかりました。「石をさがして見つけたのが楽しい」とのことです。非常に丁寧に準備もプログラム実施中も心配りしながら運営して下さったように思います。おとな(というより、保護者)は、どうしても目に見える効果や「上手な」作品を期待してしまいがちですが、環境を含む生活そのものを「アート」としてとらえる考え方、アートする子どもたちとおとなたちの信頼感、そういったものを体感する豊かな時間を過ごすことができたのではと思います。年末に特別な時間をつくってください、本当にありがとうございました。

今後の展開

○リソース

・アート面ではひじょうに充実していたが、さらに地元のリソースを巻き込むことを目指す。年末を避ければ可能になるのでは。

○日程

・年末を避け日数を3泊4日に減ずることで参加者増を目指す。

○プログラム

・種目を減らす必要がある。あるいは種目ブースを複数設け選択制にすれば、個々のペースで取り組むことが可能になる。

○リーダーシップ

・複数ブースを可能にするには、指導可能な複数のリーダーシップ養成が必要になる。